

卒業を 見つめる母の 目の清し忠文	神戸市会議員 うらがみ忠文新聞	2013年 春の号
-------------------------	--------------------	--------------

# 「お互い様局」を作ろう！と提案。

- 明るい光の海に、山に、街に、何かにつけてスタートの春がやってきました。家庭でも学校でも職場でも、どんな組織でも社会でも、笑顔や元気の源は、みんなが一体感を持つことではないでしょうか。「心をひとつに」であります。
- 神戸市でも、市役所と市民との一体感、市民どうしの一体感がなくては神戸に元気の活力が生まれません！ということで、昔の市民局を「市民参画推進局」と名称を変更したり、参画条例を作ったりして、市役所と市民の「協働と参画運動」をくり広げていますが、市民の心に響いているとは言い難いありさまです。
- そこで、私はこの春の神戸市会本会議代表質問で、「市民参画推進局」という名前は、市民に対して上から目線すぎないか、堅苦しくないか、ということで「市民参画お互い様局」にしてはどうか、と提案しました。一体感とは、「お互い様」という考え方や行動から生まれてくるのではないのでしょうか。
- 市長さんもニコニコ笑って、理解は示されました。「お互い様と言えば、神戸！」と言われる日がやってくるよう、さらに努力してまいります。

「この世に生まれたからには、人の役に立つことをしたい！」と思う人々で満ち溢れている行政や社会を創るのが、政治の仕事です。

ただふみ  
うらがみ忠文

### 【うらがみ忠文の行動目標】

- 1、「市民と行政」が、がっぷり4つに組んで、地域の活力を生み出す。
  - ・市職員は、もっとまちに出て話す。
- 2、「神戸の元気」を取り戻す。
  - ・行政は、民間と共に、とにかく「仕事を生み出すこと」に、全力を尽くす。
  - ・「感謝する心を育む教育」  
感謝心、お陰様という恩返しからの「やる気」の方が、欲望に基づく目標よりはるかに強い「やる気」を起こします。
- 3、「福祉の神戸」を取り戻す。
  - ・昔と違って、困った時に相談する人が身近に見つからない時代になってきました。
  - ・赤ん坊からお年寄りまで、福祉は行政の最大の仕事です。生活の「悩み、苦しみ」に、力強くしっかり応える市役所に！

「お互い様」  
「おたがひさま」は  
明るい社会の  
第一歩!!



# 議会の外でも、私は 毎日「発信」しております。

## ● 携帯電話「ブログ」で！

<http://uragami.mobi/>



## ● パソコン「ブログ」で！

うらがみ忠文ブログ

検索

## ● フェイスブックも始めました。 フレンド申請、お待ちしております！

## ★ ホームページは、毎月1日に更新！

うらがみ忠文

検索

- ・文ちゃんの「ひとりごと」
- ・月刊「大演説」
- ・今月のトピックス
- ・神戸の四季の俳句



自画像です！

## この春先のブログより...

今から48年前。昭和40年。1965年の春浅い頃のことです。

高校3年生の秋に、母を54歳で亡くしていました。

家の料理は、5つ年上の大学生の兄の担当になっていました。

大学受験の弁当も、兄が作ってくれました。おかずは牛肉の甘辛煮でありました。家を出て駅に行くのに、50メートルほど進んで右に曲がります。曲がるときにふと振り向くと、兄はまだ立っていました。

午前の試験は絶望的に難しくて、出来ませんでした。「あかんやろなあ。申し訳ないなあ」牛肉の甘辛煮がのどを通りません。ふと、周りを見渡すと、みんな同じ風情です。みんな不安げでありました。

弁当を食べているみんなを見ながら、お母さんやら、お姉さんやら、おばあさんやら、みんなそれぞれに優しい家族の誰かが作ったのやろなあ。

みんな優しい家族がいるのやろなあ...

別に俺が合格しなくても、他の誰かが合格して、その家族が「やったーあ」と喜べば、それで良いではないか、という思いが溢れてきました。晴々とした気持ちになりました。

今でも私のモットーである「俺は、後で良いよ！」というひとつの言葉が浮かびあがった瞬間であります。

感謝、感謝。

お陰様でブログは8年目を迎えました。